

「仕える事」

～あなたは使えるものになっていませんか～

マタイ 20：20-28

エペソ 6：6～7

イギリスに「幸福の王子」というお話があります。幸福の王子と呼ばれた王子は亡くなった後、像となり街の広場に建てられました。その姿は金箔に覆われ、目にはサファイア、剣にはルビーがはめ込まれました。秋も深まるある夜、1羽のツバメが南の国に行く途中、寝床にするため王子の足元へ降り立ちました。そこで王子は大粒の涙を流してツバメに言います。「自分は幸福な人生を送ったが、今ここに立ってはじめてこの街のみじめさや人々の悲しさ、醜さがわかってしまった」と。そして王子は自分を光輝かせている宝石や金を貧しい人たちに分け与えたいと願うのでした。南の国に早く旅立ちたかったツバメはすぐにそこを去ろうと思っていましたが、王子の気持ちに心動かされ共に困っている人々のために飛び回ることを決めました。そして人々が喜びのなか迎えたクリスマスの日、ツバメはとうとう息絶え、みずぼらしい姿となった王子の像も心砕け崩れ落ちるのでした。そんな王子とツバメを神様は天に引き上げ元どおりにされた、というお話です。自分の見る目線を変え、自らの持っているものをもって人々を助けること。今回はそんなメッセージです。

あなたは人と関わる時、どのような気持ちと態度で接していますか。私たちはとかく、自分に関わる人や物を自分のために用いようとします。そして自分にとって良いことをしてくれる人や役に立つ物に対して「使える」と思い、良くないことをする人や役に立たない物に対して「使えない」と思ってしまいがちです。ゼバダイの子ヤコブとヨハネはこの世を良くしたいという純粋な気持ちから、イエス様に従いました。しかし、イエス様の様々な御業を目の当たりにすると、この力を自分の目的のために使いたいと思うようになりました。その母もまた、自分の息子たちが人々に認められ、えらくなることを思いイエス様をお願いをします。(マタイ20：20～28) そのときイエス様は、「わたしが飲もうとしている杯を飲めますか」とたずねます。あなたにはこの「杯を飲む」とはどういう意味が分かりますか。この杯は「仕える杯」です。つまり命をかけて死に従ってまでも、神のみこころのとおりにおこなうということです。仕えることをサービス(service)といますが、語源は奴隷(slave)からきています。奴隷は主人のためにどんなことでも忠実におこないます。これこそが本来の「仕える」という意味なのです。一般的に使われる「仕事」も本来は自分がその人のためにしてあげることによって相手の益となること、相手が幸せになることを指します。しかし私たちが生きている社会では、会社に就職して給料をもらうために働くこと、また家事をすることが仕事と呼ばれます。「やりたくないけど仕事だから仕方がない」という言葉を聞いたり、自分自身が言ったりしていることはありませんか。もし、あなたがこの世の概念で仕事をしているなら、その仕事からマイナスを取りましょう。「仕」からマイナスを取ると「什」という字になります。クリスチャンであれば什一という言葉でピンとくるかもしれませんが、普段はあまり目にしない字かもしれません。この「什」という字は一伍一什という言葉(最初から最後という意味)で使われます。いかにも人のための十字架にみえませんか。キリストが十字架の上で「完了した」ことは何でしょう。これは「仕える事」なのです。では、私たちが仕える事を完了させるためにはどのようにしたらよいのでしょうか。仕えるものとなるために・・・①『**使えると仕えるを間違わない**』ようにしましょう。あなたは人を使おうとして接していませんか。また、自分の思ったようにしてくれないからと腹を立ててはいませんか。「仕える」とは人がいやと思うことを自ら進んですることです。自分の得は考えず、相手を思うことです。それは赦すことであり、愛することです。②『**誤った仕事にしない**』ようにしましょう。(箴言24:27) あなたは何かをするとき「仕事」と割り切っていることはありませんか。先にも書いたように仕事とは仕える事です。あなたが今その場所にいるのは、神様があなたを選び任命されたからであり、そこであなたの実を結ばせるためです。これからは関わるすべての仕事をビジネスとしてではなく、サービスとしておこなっていきましょう。③『**自己中心とプライドを捨てる**』ようにしましょう。(ピロ2:1-9) イエス様はご自分が神の御姿である方なのに神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして仕える者の姿をとられたのです。このイエス様の仕える姿に自己中心やプライドは全くみられません。自己中心やプライドがあると、自分の思いが強くなり、仕える事が難しくなります。そして私たちのプライドはときに神様を使おうとしたり、キリストの十字架を当たり前のように思わせたりします。なにか自分の中でよくないと思うことをしてしまったとき、自分は神様を信じているから大丈夫という思いはありませんか。確かに神様は赦してくださいます。でもそれはあなたが立派だからではなく、神様が愛の方だから赦されるのです。そのことを忘れず私たちは周りの人、特に自分にとって苦手に思う人、マイナスを与えるような人にこそ心を尽くして仕えることが大切です。イエス様は神のみこころのままに見返りを求めることなく、ただ仕える生き方を全うしました。あなたがもしも今まで人を使う人生を歩んでいたなら、今度は人に仕える人生を歩みましょう。神様は人を完璧につくられました。もし、あなたになにか欠けたところを感じるならば、それを満たしてくださる神様に求めましょう。人は変われます。神様がつくってくださった本来の姿に戻れます。人を使おうとして行動するのではなく、仕える事を実践しましょう。そうすればその姿を通して自分自身も、周りの人も変わることができるのです。(要約者：金光 瞳)